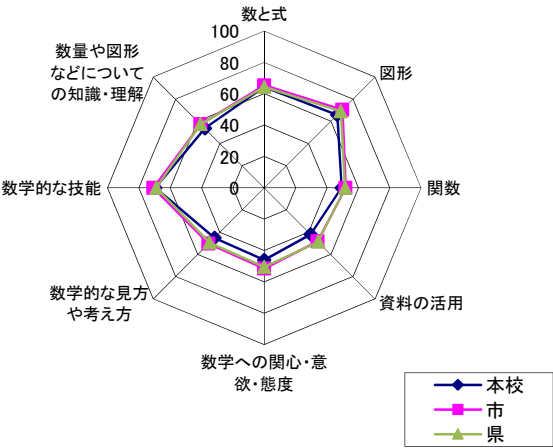


宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	64.3	65.4	64.4
	図形	65.8	70.5	69.0
	関数	49.3	51.9	51.5
	資料の活用	41.9	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	45.9	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	44.9	50.2	49.4
	数学的な技能	69.4	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	53.6	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○分数の四則混合の計算、1次式の減法の問題については正答率が県平均より高い。 ●平均正答率は、市の平均より1.1ポイント低い。与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式すること、文字を使った式で数量を表すことに課題が見られる。	・基本的な計算については、身に付いている生徒もいるが、さらに基礎基本の定着を目指して、授業の中で継続してプリントやワーク等を用いた反復練習を取り入れ、計算力をさらに上げていきたい。また、与えられた事象を表、式、図などを活用しながら整理し、説明することを授業の中で、言語活動を取り入れながら伸ばしていく。
図形	○三角形を回転移動させたときの回転の角の大きさについて理解しているについては正答率が県平均より高い。 ●平均正答率は市の平均より4.7ポイント低い。線分の垂直二等分線を作図し、三角形の面積を2等分する直線を作図することに課題が見られる。	・図形の学習で具体物を使うなどして移動等の学習をイメージしながら行うことで理解できている生徒が増えてきているので続けていきたい。作図方法は理解しているが、作図を行うことにどのような図形の性質があるのか、その性質を利用してどのような場面での作図方法を用いるか判断することに、課題が見られる生徒が多い。なぜ作図をするのかということを、言語活動を取り入れながら考えさせる。
関数	○与えられた式から、2つの数量の関係が比例であることを判断する問題については正答率が県平均より高い。 ●平均正答率は市の平均より2.6ポイント低い。与えられた式から問題を解決する方法を数学的に説明すること、関数について理解しているに課題が見られる。	・授業の中で2つの事象の関係について言語活動を取り入れながら比例、反比例を反転させる活動を取り入れてきて理解できている生徒も増えてきているので今後の関数の学習でも続けていく。問題を解決する方法を数学的に説明することができるように、式、表、図に表し、表したことをどう数学的に説明するのかということについて学び合いの学習を続けていく。
資料の活用	○階級の幅について理解する問題については正答率が県平均より高い。基礎基本を繰り返し学習していることの成果だと考えられる。 ●平均正答率は市の平均より6.7ポイント低い。1つの資料の全体の中での位置を判断するための根拠となる値について理解し、判断することに課題が見られる。	・資料の活用の基本的な学習についてヒストグラムを使って比較させるなどして理解する生徒は増えてきている。さらに資料の活用の基本的な用語の意味について復習を行い定着させる。資料から根拠を示して判断することができるように、実際の資料を分析し、グループでお互いに根拠を示す、判断した理由を話し合うことで資料が何を表しているのか読みとる力を育成していく。